

松井繁名誉会長を悼む

辻井達一

日本国際湿地保全連合会長

日本国際湿地保全連合は、名誉会長・松井繁博士を失いました。松井博士は「白鳥の先生」として有名でしたが、博士と私とのご縁もまた、白鳥を通じてのものでした。

ラムサール条約登録湿地の一つ、北海道苫小牧にあるウトナイ湖は世界でももっとも頻繁な航空路の直下にある湖ですが、ここはまた、もっとも多くの白鳥のフライウェイでもあります。

ウトナイ湖のすぐそばに、その名も白鳥湖と呼ばれる小さな湖があって、松井博士はここにスワン・ミュージアムの建設を企画されました。そのプランはこれまた奇しくも私の年来の友人であった熊谷直勝教授（故人・北海道教育大学教授・デザイン学）がデザインしたこともあって、ご相談を受けたのが始まりで、以来、長くご厚誼を受けました。

スワン・ミュージアムは遂に日の目を見ませんでした。今のウトナイ湖野生生物センターは、いわばそれが具現化したものと言えるでしょう。

さて、日本国際湿地保全連合の発端は、1977年（昭和52年）の国際水禽調査局日本委員会（IWRB-J）に遡ります。創立間もなく1980年（昭和55年）2月に、IWRB第26回各国代表者会議が札幌で開かれましたが、松井博士はこの札幌会議開催に大きく貢献されました。その年の6月には、日本政府がIWRBに加盟、釧路湿原のラムサール湿地登録の運びとなったのです。

1985年（昭和60年）に、創立当初からの山階会長が辞され、松井博士がその後任として会長となりました。

1989年（平成1年）委員会の名を国際水禽湿地調査局日本委員会（IWRB-Japan committee）としました。「水禽」に「湿地」が加わったわけです。同年「日本湿地目録」が出版されています。

1993年（平成5年）釧路市でラムサール条約第5回締約国会議が開かれ、IWRB-Jは発表を、また、これを期に釧路国際ウェットランドセンター（KIWC）の設立に大きく力を注ぎました。

引き続いて1994年には同じく釧路市で「東アジア～オーストラリア湿地・水鳥ワークショップ」を環境庁、オーストラリア自然保護庁、AWBなどと共催し、国際的ネットワーク作りに貢献しています。

翌1995年10月には「湿地と開発に関する国際会議」をAWB、ウェットランド・フォー・アメリカと共催しました。

1996年（平成8年）3月にブリスベンで開催のラムサール条約第6回締約国会議の開催に協力、ここでは本会がAWBと協力して作成した「アジア太平洋地域における湿